

令和6年沼津市教育委員会 第1回定例会会議録

1 日 時 令和6年1月22日(月)
午後3時00分～午後3時15分

2 場 所 沼津市水道部庁舎 3階会議室

3 日 程

- (1) 開会
- (2) 会議録署名人の指名(重光委員 佐藤委員)
- (3) 教育長報告
- (4) 議案
- (5) 協議事項
- (6) 報告事項
報告事項1 令和6年二十歳の集い及び二十歳の議会について
- (7) その他

4 出席者等

教育長 奥村篤、教育長職務代理者 重光純、委員 川口 浩史、委員 土屋葉子、委員 佐藤清子、教育次長 山本貴史、教育指導監兼学校教育課長兼情報教育推進室長 山崎巖、教育企画課長 原将史、生涯学習課長兼ゆめとびら舟山所長 山本浩司、調整担当・教育企画課長補佐 内村一徳、教育企画課指導主事 栗原克弥、教育企画課指導主事 松岡ミュキ、教育企画課事務補助員 後藤恵

5 会議内容

(1) 開会

奥村教育長が午後3時00分開会を宣言する。

奥村教育長 周知のとおり、元日に最大震度7を観測した能登半島地震が発生し、翌2日には羽田空港で飛行機同士が衝突、炎上した。被災地では大規模火災や津波の被害、事後現場では衝突の原因等が明らかになってきている。今日で3週間経つが、未だ停電、断水の続く地域が多く、衛生環境の悪化は否めない。断水の復旧は早くても2月末だと言われている。災害関連死の報告も増えてきている中で、今夜にはこの冬一番の寒気が流れ込み、北陸地方は大雪に見舞われる日が続く予報も出ている。3学期スタートの目途が立たない学校があること、約15,000人の避難所生活を強いられている被災者の中、受験を控えた中高生が毎日避難所運営の手伝いに奮闘していることを聞くと、胸が大変苦しくなる。また、やむを得ず受験のために家族と離れて集団避難する中学校もある。今回の大規模地震は、たまたま私たちの生活エリアで発生しなかっただけであり、明日は我が身である。これまで、天災は忘れた頃にやってくると言われたが、29年前の阪神淡路、13年前の東日本、8年前の熊本、そして今回の石川と、震災は忘れる前にやってくるといふ認識を持たざるを得ない。本市からは、消防援助隊をはじめ学校管理課からも危険度建物判定士として余震が続く現地へと赴いた。今日までで震度1以上の余震

は約1,500回、まだ2週間程度は続くようだが、落ち着けば今後はボランティアを募ることと思う。

先日、校長先生方には私たちに何ができるのかを考える中で、改めて防災意識を高めていく取組等の指示をしたところである。突然の出来事により大切な方の尊い命を失ってしまった御遺族の心中をお察しする。また、22名の安否が不明の方々の捜索はもとより、被災された方々には一日も早く復興、復旧がなされ、穏やかな日々を取り戻せることを心よりお見舞い申し上げます。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に重光委員、佐藤委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 0人

(3) 教育長報告

奥村教育長 本日1月22日は何の日か知っている方はいるだろうか。「カレーの日」である。昭和57年に社団法人全国学校栄養士協議会が、子どもたちに好まれていたカレーを全国の学校給食メニューとして提供を呼びかけたことにちなんで、全日本カレー工業協同組合が記念日として制定した。当時は全国およそ800万人の小中学生が給食でカレーを食べたそうだが、あれから42年経った本日の市内小中学校の献立は、カレーではなかった。

1月6日、7日には、沼津市立沼津高等学校中等部入学者選抜が行われた。年末年始にはインフルエンザが流行っていたが、両日とも志願者全員が受検し、大きな混乱なく実施できた。今年は80人の定員に対し110人が志願し、志願倍率は1.38倍であった。結果は先週17日に通知した。4月の入学に向け、新たな希望を膨らませていることと思うので、教育委員会としても、希望あふれる生徒を受け入れる準備を進めていく。

1月7日には、沼津市役所本会議場にて二十歳の議会を開催した。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、多くの出席者はマスクを着用せず、晴れやかな表情を見ることができた。佐藤委員も傍聴席で議会の様子を御覧になっていた。詳細についてはこの後事務局より報告するが、質問に立った3人を除く出席者16人から「わたしにとっての沼津の宝」を発表してもらった中で、「沼津の宝は沼津の先生方」と発言してくれた方がおり、大変感銘を受けた。改めて、教師冥利に尽きるところである。

昨日1月21日には、市民文化センター大ホールにて、市制100周年を契機に新たに編曲された沼津市歌のレコーディングが行われた。現在の市歌は昭和30年の合併記念行事の企画として制作されたが、今後より多くの市民に親しみを持って歌われ、世代を超えて歌い継いでもらいたいという思いで、沼津市在住の川口三郎氏に編曲してもらった。川口三郎氏は、ブラスバンドや音楽教師としても活躍されている方である。今回のレコーディングでは、独唱、斉唱だけではなく、吹奏楽版とオーケストラ版のレコーディングも行われ、前者には栗原指導主事が参加した。私も、斉唱に市立沼津高等学校中等部の生徒と一緒に参加させてもらった。今後は、正午の同報無線のチャイム音や市役所の電話保留音としても活用され、各小中学校でも歌われる予定である。沼津市歌が誕生して約70年経つが、もう

一度この歌を忘れずに歌い継いでいくという意味でこのレコーディングが行われた。教育長報告は以上とする。

<議案>

奥村教育長 日程（４）議案は、本日は案件なし。

<協議>

奥村教育長 日程（５）協議事項は、本日は案件なし。

<報告>

奥村教育長 日程（６）報告事項である。

報告事項１ 令和６年二十歳の集い及び二十歳の議会について

<二十歳の集いを戸田校区は１月４日（木）、戸田以外の１６校区は１月７日（日）に、地域独自の手づくりの式典として中学校区ごとの地域分散方式で開催した。出席者数は１,３２０人、出席率は８１.３％で昨年より０.７％増であった。１月７日（日）午後２時から、二十歳の議会を市議会本会議場で開催した。出席者１９人のうち３人の二十歳の議会議員から市政について質問があり、市長及び教育長が答弁を行った。一般質問者以外の議員は、「わたしにとっての沼津の宝」というテーマで一言ずつ発言した。>

（生涯学習課長 資料に基づき説明）

奥村教育長 説明が終わった。議長をされた方が最後に「私たちは沼津の一員として次代を担う者である。シビックプライドをしっかりと持ち、沼津を盛り上げていきたい。」という言葉でしめくくっていた。当日、佐藤委員も傍聴されていたが、感想等があればお願いしたいと思う。

佐藤委員 昨年も同様のテーマであったが、今回は「自然や人」について宝だと感じている人が多い印象であった。また、昨年と比べると傍聴者数が多かった。

奥村教育長 「シャッター街が増えて寂しいところもある。これから自分たちで盛り上げていかなければならないと感じている。」といったような、現状の課題を指摘しながらも、自分たちでも何とかしなければと思っている様子が印象的であった。年代を問わず誰もが楽しめる場所にしていきたいといった意見もあり、全体的に前向きで、沼津に誇りを持っている様子が見られ、嬉しかった。年々子供の数は減っているが、コロナが５類に移行したこともあり、出席率が上がった。私も校長として関わりのある最後の卒業生、第五中学校区の集いに参加させていただいた。当時の記憶がよみがえり、これで最後だと思うと感慨深いものがあった。ほかになければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

<その他>

奥村教育長 日程（７）その他である。
何かあるか。なければ、以上をもって本日の定例会を閉会する。

午後３時１５分 閉会